

新刊書刊行のご案内

このたび、

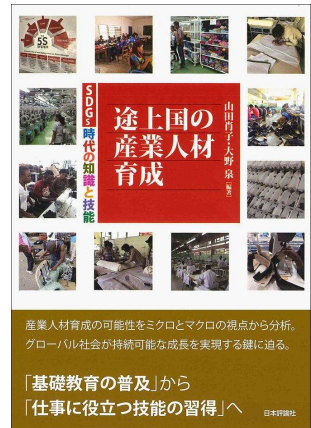
山田肖子（名古屋大学大学院国際開発研究科教授）

大野 泉（政策研究大学院大学教授・JICA 緒方研究所前所長）／編著

『途上国の産業人材育成——SDGs 時代の知識と技能』

を刊行いたしました。

ぜひご高覧・ご高評を賜れましたら幸いに存じます。



A 5 判、並製、348 頁
本体 3,500 円＋税
日本評論社、2021 年 2 月刊

「教科書の内容を覚える能力」より、「学んだ知識を使って問題解決ができる能力」こそ重要。

これが、SDGs 時代のグローバルな知識観！ そして持続可能な成長のカギ！！

【本書の概要】

かつて国際社会における教育開発の目標は「万人への基礎教育の普及」であった。しかし近年は、「学歴ではなく、生活や仕事の場で**実際に使える知識や技能**」が重視されるのが世界的な潮流。

- 「持続可能な開発目標（SDGs）」の SDG4（教育に関する目標）も教育サービスの質や量ではなく、学んだ人々が実際に身に付けた知識・スキルや態度変容を重視
- グローバルな経済発展・貧困削減には、生産性の向上と産業人材の育成が不可欠



「実際に使える知識や技能」とは何か？ どうやって身に付け、どこで役立てるのか？

- 第Ⅰ部では、基礎的な歴史的・学問的背景をカバー。第Ⅱ部では、特徴的な事例やテーマを紹介。第Ⅲ部では、現地調査や実証分析によってミクロレベルの状況を明らかにする。
- 産業人材育成に関連する諸テーマにつき、ミクロの視点（個人・企業・学校の行動）とマクロの視点（制度・政策）、さらにそれらの関連（政策が個人・企業・学校の行動にどう働きかけるのか）といった視点から、実態とその要因を多層的に分析。
- 取り上げている事例・データは、ベトナムとエチオピア、南アフリカ、ケニア、ルワンダなどアフリカ諸国が中心。

扱っているテーマの例：

- ✓ 国際協力や教育の分野における「知識観」の変遷（1・2 章など）
- ✓ グローバル・バリューチェーンの中での生産性向上（カイゼン等）（3・6・7 章など）
- ✓ 国の産業人材育成政策（需要創出、人材育成、産学連携等）（4・9・10 章など）
- ✓ 日本の開発援助（ODA）は、どのような産業人材育成に力を入れてきたか（5・8 章など）
- ✓ 企業が求める知識・技能と、学習者が望む知識・技能のギャップ（10・12・13 章など）
- ✓ 労働者はどうやって自分のキャリアを形成していくのか（11・14 章など）

【本書の特長】

- 日本の ODA が長年重視してきた産業人材育成。そこに第一線で携わってきた豪華執筆陣。
- 学際的な分野（教育学、開発経済学、経営学、公共政策など）ゆえ、1 冊の書籍で一貫して論じることが難しかった「産業人材育成」について、多角的かつ包括的にまとめあげた意欲作。